GLOBAL REGULATORY PARTNERS

全国糖尿病週間 2026・世界糖尿病デーに寄せて

Act Early on Diabetes ― 小さな一歩が未来を変える

【東京、2026 年 11 月】全国糖尿病週間（11 月 9 日～15 日）と世界糖尿病デー（11 月 14 日）にあたり、グローバルレギュラトリーパートナーズ合同会社（GRP）もこの呼びかけに加わり、糖尿病への理解、予防、早期発見の大切さをお伝えします。

日本糖尿病協会が掲げる 2026 年の全国糖尿病週間のテーマは「小さな一歩が未来を変える ― 肥満対策とダイアベティス予防 ―」です。また、世界保健機関（WHO）と国際糖尿病連合（IDF）は、糖尿病への「早期の取り組み」の大切さを訴えています。

- 世界で糖尿病のある人の 40%以上が、いまだ診断を受けていません。
- 2 型糖尿病のある人の最大半数は、診断の時点ですでに合併症を有している可能性があります。

日本でも、決して小さな課題ではありません。厚生労働省の令和 6 年「国民健康・栄養調査」によると、

- 「糖尿病が強く疑われる者」は約 1,100 万人、
- 「糖尿病の可能性を否定できない者」はさらに約 700 万人と推計されています。

2 型糖尿病は自覚症状が少ないまま進行することがあるため、定期的な健康診断の受診、検査結果の確認、そして必要に応じた早めの受診が大切です。

弊社は、糖尿病の予防と早期発見、そして糖尿病のある方への理解を広げる取り組みを応援しています。誰もが周囲の支えと理解のもとで学び、働き、暮らせる社会であることを願っています。

日々その支えとなっている医療関係者、教育関係者、患者団体、ご家族の皆さまに、心より感謝申し上げます。

糖尿病の予防と早期発見に関する信頼できる情報は、2 ページ目の情報源をご参照ください。

出典：WHO および IDF 世界糖尿病デー2026 キャンペーン、日本糖尿病協会 全国糖尿病週間 2026、厚生労働省 令和 6 年「国民健康・栄養調査」（2025 年 12 月公表）

GLOBAL REGULATORY PARTNERS

糖尿病の予防と早期発見

信頼できる情報源

以下の公的機関・専門団体が、糖尿病の予防、検査、早期発見に関する情報を公開しています。専門的な臨床資料は、医療専門家の助言のもとでご確認ください。

早期発見と予防に関する情報

糖尿病情報センター（JIHS）

「糖尿病は早く見つけましょう」：健診と早期発見、血糖値・HbA1c の解説。

dmic.jihs.go.jp →

厚生労働省 e-ヘルスネット

「健診」の基礎知識：健診の目的と結果の活用。

kennet.mhlw.go.jp →

厚生労働省 e-ヘルスネット

「糖尿病になる前に」：血糖値が高めといわれた方向けの生活習慣の見直し方。

kennet.mhlw.go.jp →

日本糖尿病協会（JADEC）

全国糖尿病週間の主催団体。予防と療養に関する情報。

nittokyo.or.jp →

医療関係者向けの情報

日本糖尿病学会（JDS）

「糖尿病診断基準」：血糖値・HbA1c・75g OGTT 等の診断基準。

jds.or.jp →

糖尿病情報センター（JIHS）

「医療者学習ツール」：医療者向け学習・患者指導資料。

dmic.jihs.go.jp →

外部リンクは一般的な情報提供を目的としたもので、リンク先の内容は各機関・団体が管理しています。本情報は医療専門家の助言に代わるものではありません。